

平成30年度 第3回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成30年9月12日（水）午後1時30分から4時00分まで

ところ：中央公民館2階ホール

1 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・12人（欠席4人）

傍聴人・・・3人

2 配付資料

- ・小平市子ども・子育て支援に関するニーズ調査 就学前児童調査票（案）・就学児童調査票（案）
- ・小平市子ども・子育て支援事業計画平成29年度推進状況の概要
- ・小平市子ども・子育て支援事業計画平成29年度推進状況（未定稿）
- ・公立保育園の運営のあり方に関する方針の見直しについて
- ・学童クラブ費の改定について

3 議事内容

- （1）（仮称）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について
- （2）小平市子ども・子育て支援事業計画（平成29年度推進状況）について
- （3）公立保育園の運営のあり方に関する方針の見直しについて
- （4）学童クラブ費の改定について
- （5）その他

4 上記内容についての意見・質疑応答

- （1）（仮称）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について

委員 育児休業についての設問が多くあったが、専業主婦の就労等についてはほとんどないので、専業主婦に対するサポートがない印象を受けてしまった。専業主婦は育児をしながら働きたいという方も多いので、預かりや就労のサポートなどがあればいいのではないか。

事務局 就労等の設問についても検討したい。

委員 このような調査は回答するだけでもとても時間がかかる。前回の回答率はどうだったか。デジタルでの調査はできないのか。

事務局 前回の回答率は66.5%であった。回答がしやすいように設問方法をしばっていくなどの工夫はしていく。デジタルの調査はシステムの経費等がかかるので課題としているところである。

委員 就学前の親御さんだと、学童クラブがどのようなものなのか等、設問にある単語が分からないのではないかな。

事務局 前回のニーズ調査では記入の手引きという事業の詳細を紹介した用語集をつけていた。今回も同様に分かりやすい手引きを作成する予定である。

委員 子どもショートステイとはどのようなものかな。

事務局 子どもショートステイは、市内の児童養護施設の東京サレジオ学園に委託して、家庭で養育できない事情のある2歳から中学3年生のお子さんを宿泊と日帰りで、お預かりしている。

委員 用語の解説を別紙として添付するというが、設問にある用語が用語集にあるかどうか分からないと探すのも大変なので、設問の用語に米印で用語集のどこにあるか記載すると分かりやすい。

(2) 小平市子ども・子育て支援事業計画(平成29年度推進状況)について

委員 妊婦健康診査事業にかかることだが、昨年の審議会でもあったが、ゆりかごこだいらで自前の商品券を渡すとあったが、もう実施したのかな。

事務局 昨年度から、ゆりかごこだいら事業として、妊婦面接に来た人に商品券を渡している。

委員 商品券を渡すようになって増えたかな？

事務局 昨年度からの事業なので、数値としてはまだ集計していないが、妊婦面接は全員にやるように進めているので、実感として若干は増えていると思われる。

委員 未受診を防ぐために始めていると思うが、どこまで追跡しているのかな。

事務局 妊婦面接に約80%の人ができていて、残りの20%ができていないので、お宅に保健師等が訪問したり、電話で問い合わせたり、なるべく面談をしてお話をしている。

委員 保育園が増えているが、保育士が足りているかチェックはしているのか。

事務局 認可保育園の場合は、市が毎月運営費の補助請求を受ける際に、正規職員から臨時職員に至るまでの全員の名簿を提出してもらっている。そこで在籍園児数に対して必要な人数であるかのチェックはしている。公立の保育園についても、常に把握している。

委員 地域子育て支援拠点事業が人数が減っているようであるが、地域で設備が古かったり、格差があるように思う。もっと人が集まるような講座などをするなど、工夫はしているのか。

事務局 地域センターによっては設備が古くなっているところなどもあるが、周知の方法や訪れやすい環境作りなど工夫はしていきたい。

会長 推進状況はおおむね順調であるようであるが、子ども・子育て支援新制度のなかで、一番大きな目標は待機児童の解消であり、3号認定のうちの1・2歳児の確保方策が達成できていない点は、担当課を含めて市としての課題として自覚しながら、解消に向けての継続的な動きを望みたい。

(3) 公立保育園の運営のあり方に関する方針の見直しについて

委員 基幹園は1園だけか。

事務局 公共施設マネジメント推進計画において、少子高齢化等の状況を踏まえて、4園の縮減が目標とされており、これを前提としているが、いずれの園を基幹園とするかはまだ具体的に決まっていない。

委員 鈴木保育園の民営化にあたっては、非常に長い時間をかけて移管せざる負えない状況であった。今回は4園の縮減を目標とすることなので、各方面に与える影響も大きいと思うが、市としてはどのような配慮をもって進めていく考えなのか。

事務局 事務的な流れは次回の審議会で示していければと考えている。配慮すべき点として、公立保育園を私立保育園へ移行していく等の手法をとる場合、その考え方を丁寧に周知・説明していくことだと考えている。委員からも公立保育園の良さを私立保育園にしっかりと継承してほしいとの意見もあったので、公立保育園の良さも丁寧に捉えたうえで、基幹園の設置、私立保育園に引き継いでいくような流れを設けていきたい。

委 員 鈴木保育園は、スムーズに移行できる予定であったのに、5年間もかかっていた移管であった。建て替えが前提になると仮設園舎になるなど園児や保護者にとっても負担は大きいので、建て替えに際しては、市の土地や施設を貸すなどの方策を考えた方がよい。

事務局 小川西保育園が改築した時に、近隣の駐輪場に仮設園舎を建てた。鈴木保育園は別の場所に園舎を建てた。市としては両方の手法を経験しているので、さまざまな手法を比較検討していきたいと考えている。

委 員 上宿保育園は公民館とくっついているが、ほかにもあるのか。また、今後、施設をまとめていくなどの方向性はあるのか。

事務局 公民館等他施設と一緒にしているのは、花小金井保育園、上宿保育園、小川保育園である。複数の施設がまたがった形の建物であると、それぞれの部署の考えを合わせて調整していく必要があるが、今のところどのように整理していくかまでは決まっていない。

委 員 23区内では、公立保育園を民営化するときに、必ず認定こども園になることを条件とするというやり方をしている自治体もあるが、小平市の場合はどうか。

事務局 現行では公立保育園からの移行は保育園が保護者の方も受け入れやすいと考えている。

委 員 「公立保育園が蓄積してきた知識や経験等」とあるが、公立保育園だけが知識や経験を蓄えてきたように受け取られる。民間が蓄積できていないように思われる。もう少し表現に配慮してほしい。

事務局 表現については気をつけたい。公立も私立も良さがあると認識しており、それぞれの良さを合わせながら市として一体となるように、公立保育園の基幹園がリードをとらせていただく形で私立とともに人材育成等を進めていくイメージである。

委員 国が認定こども園制度を作ったときに、今後は認定こども園に向かっていくような方針であったはずである。小平が考えていない理由はなぜか。

事務局 先ほどの回答は、公立保育園の私立保育園の移行に対しての答えであり、保護者が利用しやすいよう、保育園と幼稚園ができるだけ境がない形で進めていこうとしている。子ども・子育て支援新制度による幼保一元化の考え方は持っているところだが、認定こども園化については、法人それぞれの判断である。

委員 公立保育園の質の高さなど、公立保育園だけが頑張ってきたような表現が多いので、もう少し公立保育園のどのような部分が満足度が高いのか、私立保育園のどのような良さがあるのかをフラットな目線で書いた方がよいのではないか。

事務局 公立保育園の運営のあり方ということで、公立保育園を中心に上げてしまっている部分があるので、もう一度表現を練り直していきたい。

(4) 学童クラブ費の改定について

委員 第二子以降が半額になっているが、国としては、第一子・第二子関係なく半分負担してほしいところではないのか。

事務局 国としては50%負担との考えであるが、第二子以降等の減額は市としての判断である。自治体によってさまざまである。二人同時の負担や低所得世帯に配慮する必要があると考えているので、引き続き継続していく考えである。

委員 学童クラブの児童一人当たりの経費は26,746円。親の負担が7,000円となっても、残りの19,000円が市の持ち出しとなる。小平市アットホーム事業と学童クラブと市の負担の差があると思うが。

会長 子どもは同じでも立ち位置によって、財源が違っており、国や都の補助があるもの、市が賄わなければならない部分がある。

委員 条例にのっているから見直しが簡単にはできないというのであれば、条例に見直すことを明記すればよいのではないか。

事務局 改定の期間については、検討している段階である。他市では、見直し期間を定めている市や改定についての要綱を定めている市もあり、混在している状況であるので、検討していきたい。

委員 7,000円にアップした内訳は。値上げしたことでの学童クラブの環境の改善は考えているのか。

事務局 値上げの1,500円の内訳は、新しく何かを始めるというものではなく、運営経費の保護者負担の割合を上げてほしいものである。エアコンの修繕や新設の学童クラブの費用に充てていきたいと考えている。

事務局 増額した財源がすべて学童クラブに入るとはいえないが、市の財政が厳しい中で財源を確保することで、子どもの安全を守るための最低限ところは手当てできていたが、それ以外のところに手が回らない部分がある。その部分の財源としていきたいと考えている。

委員 説明会には20名ぐらいしか参加していないとのことで、利用者全体の2%にも満たない。全体には説明はきちんとしているのか。

事務局 学童クラブの父母会の代表として参加している人が多かった。今後の周知としては、説明会の資料等をホームページに掲載するようにしている。

事務局 保護者の集まりである父母連の会長・副会長には説明しており、各保護者の方にも情報は行き届いている。10月の後半には父母連の意見交換会もあるので、こちらでも話をする予定である。

委員 ホームページに掲載するだけでなく、きちんと全員に周知すべきである。

事務局 今後も保護者の皆様に丁寧に説明をしていきたい。